

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 29 年 6 月 26 日

施策	1 5 高齢者がいつまでも元気で暮らせる環境づくり		
施策 主管課	長寿介護課	氏名	赤尾好彦
施策 関係課	福祉総務課、芦川支所地域住民課		

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ◇市民(65歳以上) ◇介護予防事業に参加した者 ◇介護認定を受けている者	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 高齢者数(1号被保険者数) 人
	b 介護予防事業参加者 人
	c 介護保険1号認定者 人
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇(高齢者が)介護予防に取り組むようになる。 ◇(高齢者が)健康を維持する。 ◇(高齢者が)健康で充実した生活を送る。 ◇(介護認定者が)満足できる介護サービスを利用できるようにする。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合 %
	e 健康な高齢者の割合 %
	f 健康で充実した生活を送っている高齢者の割合 %
	g 1号介護サービス利用率(介護サービス受給者数/認定者数) %
	h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇高齢者が健康な生活を送るため、健康のために続けていること(介護予防)があるかどうか、健康で充実した生活を送っているかどうかを、高齢者に聞く。 ◇健康な高齢者の割合:65歳以上の市民に占める介護保険未認定者の割合で把握する。⇒1-(認定者数/1号被保険者数) ◇介護サービスの利用により満足なサービスを受けているか、単に認定取得のみか利用率から把握する。介護サービス利用率=(施設+居住系+在宅)サービス受給者数/認定者数	⑥ 成果指標の取得方法 ◇まちづくり基礎調査設問「あなたは、現在、健康のために続けていることがありますか。(例:健康診断の受診、食生活の改善、運動の継続、健康づくりサークルへの参加など)」「あなたは、現在、健康で充実した生活を送っていますか。」(平成26年度については、「元気度チェック笛吹」調査による把握) ◇健康な高齢者の割合は地域包括ケア「見える化」システムで把握。 ◇健康な高齢者の割合、介護サービス利用率は、介護保険課で把握。

### (2) 指標・事業費等の実績推移と目標値

			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、決算	29年度 最終目標	
対象 指標	a 高齢者数(1号被保険者数)	人	見込み値	16,923	17,741	18,343	18,912	19,376	19,752	19,980
			実績値	17,399	18,042	18,514	19,066	19,494	19,827	
	b 介護予防事業参加者	人	見込み値	17,300	17,400	18,000	18,100	18,200	18,300	18,400
			実績値	18,597	23,049	18,712	21,867	18,082	18,399	
	c 介護保険1号認定者	人	見込み値	2,540	2,602	2,850	2,909	2,970	3,030	3,095
			実績値	2,659	2,755	2,847	3,045	3,182	3,178	
成果 指標	d 健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合	%	成り行き値	71.0	71.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0
			目標値	75.5	77.0	73.0	73.5	74.0	74.5	75.0
			実績値	72.7	71.0	71.0	(69.0)	-	-	
	e 健康な高齢者の割合	%	成り行き値	85.0	85.0	87.0	87.0	87.0	84.7	83.9
			目標値	88	88.5	88.5	88.5	88.6	84.0	84.0
			実績値	84.7%	84.7%	84.6%	84.0%	83.7%	84.0%	
	f 健康で充実した生活を送っている高齢者の割合	%	成り行き値	69.5	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
			目標値	72.0	72.0	72.1	72.2	72.3	72.4	72.5
			実績値	70.3	65.5	74.1	(79.9)	-	-	
	g 1号介護サービス利用率(介護サービス受給者数/認定者数)	%	成り行き値	84.0	84.5	85.0	85.0	85.5	85.5	86.0
			目標値	84.5	85.0	85.5	86.0	86.5	87.0	87.5
			実績値	84.8%	85.4%	86.1%	85.9%	86.3%	89.1%	
h		成り行き値								
		目標値								
		実績値								
施策コスト 施策に係る事務事業のコストの合計(評価外を含み、繰越分を除く)	事務事業数		本			49	48	46	51	
	事業費 (A)		千円	6,018,942	6,214,257	6,393,646	6,940,710	6,049,704	6,174,233	
	うち一般財源 (A')		千円	1,878,773	2,018,525	2,022,543	2,161,867	1,559,465	1,482,134	
	人件費 (B)		千円	166,188	146,248	140,985	145,356	154,928	152,074	
	トータルコスト (A+B) (C)		千円	6,185,130	6,360,505	6,534,631	7,086,066	6,204,632	6,326,307	0
うち一財 (A'+B) (C')		千円	2,044,961	2,164,773	2,163,528	2,307,223	1,714,393	1,634,208	0	

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

●後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。  
 ◇健康のために続けていることがあると答えた高齢者の割合:成り行き値は、過去の平均値から72.0%と設定。目標値はH23年度実績値を踏まえ、H25年度より毎年0.5ポイント増と設定。◇健康な高齢者の割合:全国比較が可能となる地域包括ケア「見える化」システムがH29年度に運用開始となったため、指標を変更し、28年度の成り行き値と目標値を見る化システムの実績値に変更した。H29年度の成り行き値は、今後、団塊世代の要介護認定者が増えることからH28年度より0.1ポイント下げ、目標値は成り行き値より0.1ポイント高く設定した。◇健康で充実した生活を送っている高齢者の割合:成り行き値は、H23年度実績を基に70%程度で推移すると設定。目標値は、前期計画最終年度(H24年度)目標値72.0%を基とし、介護予防事業を進めることで、毎年0.1ポイント増と設定した。◇介護サービス利用率:成り行き値は、H23年度実績を基に微増と設定。目標値は、H25年度を85.5%と設定し、毎年0.5ポイント増と設定した。H28年度以降の実績値は、見える化システム運用開始に伴い取得方法を変更した。

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

<p><b>ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと)</b>                  ◇市民は、健康づくりに取り組む(ウォーキング等)。健康づくり教室に参加する。健康診断を受ける。介護予防事業に参加する。                  ◇事業所は、高齢者に対して介護予防・介護サービスを提供する。                  ◇地域住民やボランティアは、高齢者の見守りや社会参加に取り組む。</p>	<p><b>イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと)</b>                  ◇市は、健康づくり事業、健康診断、介護予防事業を実施する。                  ◇市は、利用者のニーズに合った、介護サービスの提供を確保する。                  ◇市は、高齢者の活躍する場の支援を行う。</p>
--	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇各種高齢者データの5年間(H23.4.1→H28.4.1)の推移  
 ①高齢化率:23.6%→27.8%、②後期高齢者率:12.2%→13.7%、  
 ③在宅独居高齢者:14.1%→20.9% ④認知症高齢者:10.4%→11.6%  
 ◇要介護認定者の推移:H23年度末2,659人→H27年度末3,132人  
 ◇介護保険法一部改正(H27年度)  
 ①介護予防(訪問・通所)介護が、市の事務(地域支援事業)に移行。  
 ②「在宅医療と介護連携」「認知症施策」等が市の事務に位置付け。  
 ③定員18人以下の通所介護が市の地域密着型サービスへ移行。  
 ④介護老人福祉施設(特養)等の入所要件が要介護3以上に限定。  
 ◇H23～H27年度に、小規模特養が4箇所、グループホームが1箇所開設。  
 ◇H28年度から、総合事業がスタートし、ボランティアによる高齢者の支援が追加された。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇市民から、「高齢者が集まる場がほしい」「高齢者が働く場がほしい」という要望がある。  
 ◇住民から特別養護老人ホームへの入所待機者が多いという声がある。  
 ◇介護老人福祉施設(特養)の一部の利用者(高所得者)から、制度改正により世帯員の所得が合算され、居住費と食費の軽減が適用外となり、毎月の負担が高額になったという声が寄せられている。

2. H28年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇健康な高齢者の割合⇒指標を見直し、目標値を変更したため、H28年度は評価項目から除外し、H29年度から評価に反映する。        ◇介護サービス利用率は、目標値87.0%に対して実績値89.1%と高い値であった。        (介護サービス提供事業所の増加及び介護サービスの充実等により、介護保険認定者が満足できる介護サービスを利用できるようになったと考えられる。)</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇健康な高齢者の割合は、H26年度84.0%、H27年度83.9%、H28年度84.0%と横ばいで推移している。団塊世代が高齢化し、要介護状態となっていくことを考慮すると、横ばいを維持できれば、成果は若干なりとも向上していると考えられる。        ◇介護サービス利用率は、H26年度85.9%、H27年度87.8%、H28年度89.1%と増加してきている。(介護サービス提供事業所の増加及び介護サービスの充実等により、介護保険認定者が満足できる介護サービスを利用できるようになってきていると考えられる。)</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 他自治体と比べてほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり低い成果水準である</p> <p>自治体名⇒ 南アルプス市、山梨市、甲州市</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇健康な高齢者の割合は、笛吹市84.0%、南ア市84.9%、山梨市82.6%、甲州市83.4%で、峡東2市より高く、南ア市より低い水準となっている。        ※H28年度末の高齢化率は、笛吹市28.4%、南ア市25.6%、山梨市31.5%、甲州市33.4%で、峡東2市より高く、南ア市より低い水準となっている。        ◇H29年1月時点の介護サービス利用率は、笛吹市89.9%、南ア市85.3%、山梨市90.8%、甲州市87.7%で、山梨市に次いで高い水準となっている。        (H26年度以降、笛吹市内に、小規模多機能型施設、認知症対応型グループホーム、小規模特養が開所するなど介護サービスが充実しつつある。)</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒ 65歳以上の市民	(単位)	26 年度	27 年度	28 年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目の a)	人	19,066	19,494	19,940	◇平成28年度は、長寿敬老事業及び居宅・施設サービス給付事業等が減となったが、地域密着型介護サービス給付事業の増により、事業費はやや増加している。対象1単位当たり事業費は、対象指数の増加により減少している。 ◇人件費の減少により、人件費率H27年度2.50%に対して、H28年度2.40%から効率は向上している。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A / D)	円	364,036	310,337	309,641	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B / D)	円	7,624	7,947	7,627	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C / D)	円	371,660	318,284	317,267	

(3)施策の現状と課題の総括

◇笛吹市の高齢化率(H28年度末、高齢者福祉基礎調査)は、28.4%で、山梨県全体28.8%と同程度にある。  
 ◇高齢化や核家族化が進み高齢者のみの世帯が増えていることで、高齢者が高齢者を介護する「老老介護」が課題となっている。  
 ◇高齢者が、地域で活躍したり、生きがいを持って暮らせる社会をつくっていく必要がある。  
 ⇒高齢者の引きこもりをなくしたり、運動機能を向上する介護予防事業に取り組む。(通所型介護予防事業)  
 ⇒一般高齢者に対しては、早いうちから「やってみるじゃん」などの介護予防事業への参加を促す。(地域介護予防活動支援事業)  
 ◇今後は、高齢者の在宅生活を支えるために、医療・介護・福祉などにおいて地域の持つ力を連携させ、在宅で医療が受けられ、介護が必要になっても在宅で生活が継続できる仕組みの確立を目指し、生きがいづくりから介護予防まで元気に過ごせる体制整備を進める必要がある。  
 ◇在宅医療・介護の連携を進めるうえで、医療機関と介護事業者との情報共有が課題となっている。  
 ◇認知症高齢者の割合が、増加傾向にある。

3.後期基本計画の取り組み方針(30年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇医療・介護・福祉などにおいて地域の持つ力を連携させ、在宅で医療が受けられ、介護が必要になっても在宅で生活が継続できる仕組みの確立を目指し、生きがいづくりから介護予防まで元気に過ごせる体制整備を進める。  
 ◇高齢者が、地域で活躍したり、生きがいを持って暮らせる社会をつくっていくため、介護予防・日常生活支援総合事業に取り組む。  
 ◇認知症高齢者に対する施策を充実させる。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇今後多くなる高齢者の在宅生活を支えるために、医療・介護・福祉などにおいて地域の持つ力を連携させ、医療や介護が必要になっても在宅生活が継続できる仕組みの確立を目指し、地域包括ケアシステムの構築を進める。